

不登校ひきこもりの主な支援

○相談支援

ひきこもりの相談支援については、最初にひきこもりの現状について、本人の生活の状況や家族の関係、生育歴や治療歴、ひきこもりに至る経緯などを聴き取り、ひきこもり本人の全体像が分かるように評価・アセスメントするところから始まります。必要に応じ、そこから機関・団体と連携を図ることもあります。

面接相談

面接による相談。開設時間が指定されており、電話による事前予約が必要な場合があります。

電話相談

電話による相談。開設時間が指定されています。

メール相談

メールによる相談。時間を気にせず相談できますが、返信に時間を要することがあります。

○訪問支援

自宅から外出することが困難な方の自宅を訪問します。

ひきこもりや不登校の支援では、当事者が支援機関等へ出向くことが難しい場合が多いこと、あるいは相談や受診に踏み切れない当事者に対する一歩踏み込んだ介入が必要な場合があることから、家庭訪問を中心とする支援が有効な支援法の一つとして期待されています。

○外出同行

一人での外出が困難な方に対し、外出時にスタッフが同行しサポートします。

○居場所提供

当事者がゆったりと過ごすことができる空間（居場所／フリースペース）を提供しています。居場所での支援プログラムを用意している支援機関もありますが、どう過ごすかは、当事者の自主性にゆだねられているところがほとんどです。

○共同生活

支援者が常駐しており、宿泊施設などでの共同生活を支援します。

○本人(当事者)の会 / 本人のつどい

回復期にある当事者が、自宅以外に安心して過ごせる居場所で、同じひきこもり経験のある方同士での活動やコミュニケーションを通して、社会参加の選択肢が広がるような支援を行っている自助組織です。

○家族会 / 家族のつどい

家族が主体的に参加するグループ活動の場。主として家族同士の語り合いが行われます。運営は家族主体と支援機関主体のどちらもあります。場合によっては講演会・勉強会などを実施しています。

○就労支援

居場所での人間関係を通じて、社会への関心が十分に育った時に初めて就労支援が目的として登場します。就労支援は、働きたいという気持ちを醸成することから、適性をみて実際に仕事を体験すること、仕事の定着を支援することも含みます。

職場体験

企業等での職場見学、職場体験などを支援します。

職場訪問

勤務先・実習先の職場・事業所を訪問し支援します。

< 医療(精神科など)の用語説明 >

○思春期外来・入院

おおむね18歳までを対象としていることが多いが、医療機関により異なることがあるので、詳しくはお問合せください。

心理検査

知能検査や発達検査のこと。こどもの得意なこと、苦手なことを知るために用いられることもあります。発達障がい等の検査にも用いられます。

カウンセリング

医師、心理士等による面接相談。

家族の自費相談

当事者本人に受診して欲しいが難しい時などに、まず保護者のみが受診し、本人への対応等について相談することをさします。自費診療(自由診療、健康保険適応外)のため、料金については、医療機関によって異なりますので、詳しくはお問合せください。

